



救急事故の多くは事前の予防対策によって未然に防ぐことができます。
当センターでは、身近に起こる事故を予防する対策として、「予防のための
応急手当訓練」を始良市消防本部のご協力のもと毎年実施しております。

今年は、11月9日(土) 10:00~11:30

大人 17 名 子供 3 名 合計 20 名の方に参加していただきました。



始良市消防本部中央消防署 始良分遣所

2部救急小隊 二禮木 将太氏

事故の事例や予防対応策についての講義



重要

予防が1番大事

けいれん発作時の症状



けいれん発作時の対応

けいれんの最中でも弱々しく息を不規則にしていますので、呼吸の助助を行って下さい。

けいれんの最中、口の中に物があると、気道を詰まらせる恐れがあり、その際は顔を横向きにして、分泌物などを外に出すようにします。

窒息しそうだからと、口の中に指や割り箸等を絶対に入れないで下さい。

怪我をする事になりますし、口の中を傷つけ出血した血液で窒息の原因となる恐れもあります。



吐乳による窒息

「赤ちゃんの様子に十分な気配りを」

赤ちゃんは、ミルクと一緒に空気を飲む為、げっぷを十分にしないとミルクをもどした際、喉や気管に詰まり、窒息する恐れがあります。

げっぷがうまく出ない時、10分～15分はミルクを吐かないか様子を見て下さい。

予防策：授乳した後は、げっぷをさせた後寝かせる



小さなおもちゃなどの誤飲

「口を動かしていたらまず確認」

5か月位になると、赤ちゃんは物をつかめるようになり、物を口に入れて誤飲する恐れがあります。

特にボタン電池は、食道や胃にやけどの様な症状を起こし、胃に穴を開けてしまう恐れがあり、医師の診断が必要です。

予防策：口に入る大きさのものは(直径3.2mm以下)
(トイレットペーパー芯の太さ)手の届かない所へ



ソファ・ベッドからの転落

「赤ちゃんから目を離さない」

ソファ等に寝かせた
場合、寝返りの際赤ちゃん
が転落する恐れがあります。



おむつ交換台から、保護者が目を
離れた際に赤ちゃんが転落する事故も起きて
います。

予防策：高い所に寝かせず、ベビーベッドの柵は
常に上げておきましょう

家具の角などによる切傷・打撲

「ちょっとした工夫で危険を回避」

赤ちゃんは頭が重く、
バランスを崩して前のめり
になったり、後に倒れたり
して、近くの家具や机の角、おもちゃなどに
ぶつかり怪我をする恐れがあります。



予防策：角や縁の鋭い家具を置かないようにし、クッション
テープを張り、積み木などのおもちゃはこまめに片付けを

電気毛布などによる低温やけど

「こまめに温度をチェック」

電気毛布やあんかななどを、体の同じ
場所に長時間接触させて使うと、
低温やけどを負う恐れがあります。



低温やけどは皮膚の深い部分に
まで達するので痛みを感じにくく、赤ちゃんはやけ
どをした事に気付かず重症となる場合があります。

予防策：寝床が暖まったら電源を切るなど温度設定に注意

車に乗っている時の事故

「便利な車が場合によっては危険な物に」

赤ちゃんを抱いて車に
乗るのは危険です。

車が衝突したり急停車
すると抱いた腕から飛び出し、
赤ちゃんが衝撃を受ける恐れがあります。



予防策：必ずチャイルドシートを使用し、後部
座席に正しく装着し使用しましょう。

小児対応可能な病院

・鹿児島市夜間急病センター

099-214-3350

月～土 19時～翌朝7時

日・祝 18時～翌朝7時

・霧島市医師会医療センター

0995-42-1171

月～金 19時30分～22時30分

土・日・祝 18時30分～21時30分

受診した方がいいのか？

・鹿児島県小児救急電話相談

・相談時間 平日 19時～翌朝8時

休日 8時～翌朝8時

・相談員 看護師

☎ 県内統一 #8000

(但しダイヤル回線、光電話及びIP電話からの使用不可)

ダイヤル回線などからは

☎ 099-254-1186

AEDを使って心肺蘇生の説明



参加者の方から「予防の大切さがあらためて必要だと勉強になりました」など感想をいただきました。

子供は大人からみると思いがけない行動や反応をする事があります。

子どもの特性と行動を知り、家庭内や身の回りのちょっとした事に注意を払い、適切な対策を講じ事故の発生を未然に防止することが重要です。

始良市消防本部の皆様、ご協力ありがとうございました。

